



2024年10月10日

各 位


会社名 株式会社 乃村工藝社  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 奥本 清孝  
(コード番号 9716 東証プライム)  
問合せ先 取締役 上席執行役員 前島 隆之  
コーポレート本部長  
(TEL. 03-5962-1119)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るべく、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社の現状を分析・評価し、改善に向けた取り組み方針を策定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

A photograph showing a business meeting around a wooden table. Several people in dark suits are visible, with their hands and arms as they look at and point to various financial documents and charts spread across the table. One person is holding a black pen over a document. The documents contain bar charts, pie charts, and text. The scene is brightly lit, suggesting an indoor office environment.

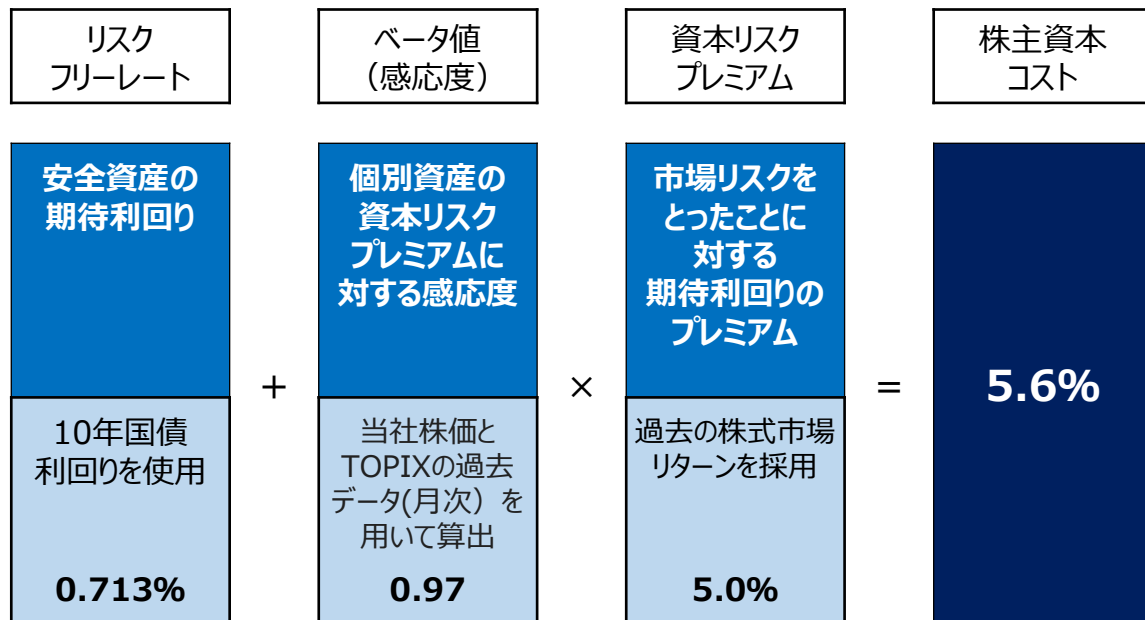
# 資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

---

2024年10月10日  
株式会社乃村工藝社

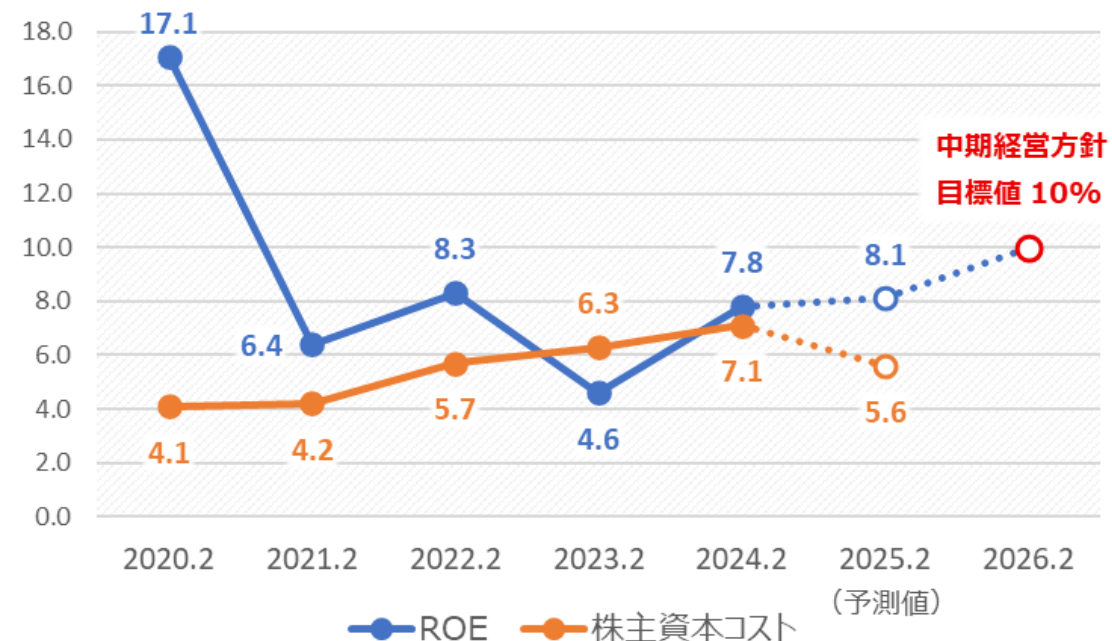
# 1 現状認識 (資本コスト/PBR&ROE推移)

## 株主資本コスト：CAPM (資本資産評価モデル)



	2020.2	2021.2	2022.2	2023.2	2024.2	2025.2
リスクフリーレート(%)	0.00	0.00	0.14	0.18	0.50	0.71
ベータ値	0.95	0.97	1.11	1.22	1.32	0.97
資本リスクプレミアム(%)	4.3	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0
株主資本コスト(%)	4.1	4.2	5.7	6.3	7.1	5.6

## ROEおよび株主資本コストの推移 (直近6期)

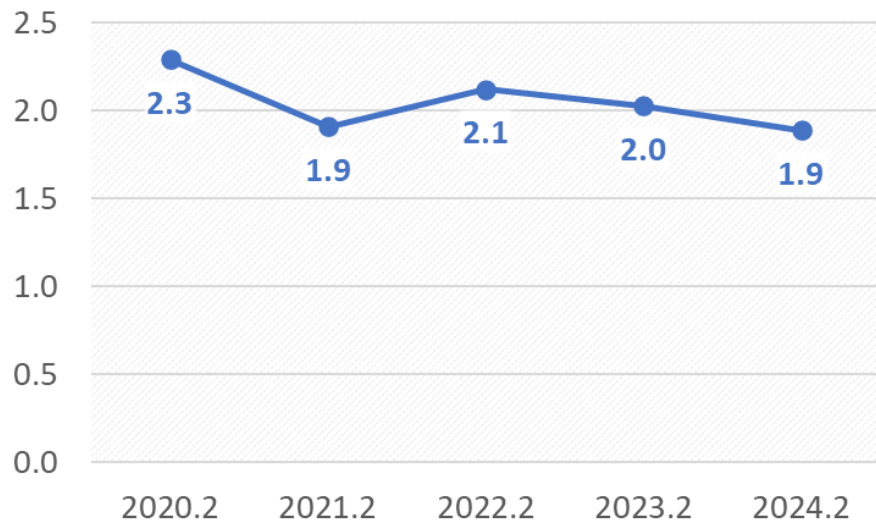


## 株主資本コストとROE

- 株主資本コストは過去5年平均で5.5% (直近では5.6%) 程度と認識
- 2024年度のROEは株主資本コストを上回る見込み

# 1 現状認識 (過去5年間のPBR分析)

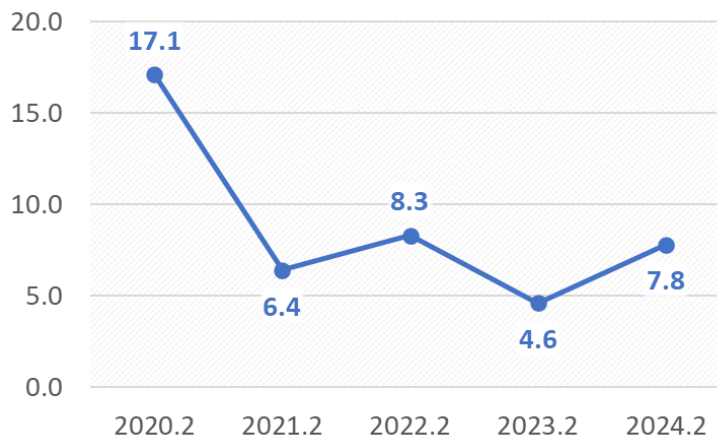
## PBR



### <分析>

- 過去5年間は2倍前後で推移。プライム市場平均1.5倍（2024.2月時点）を上回った状態で推移している。

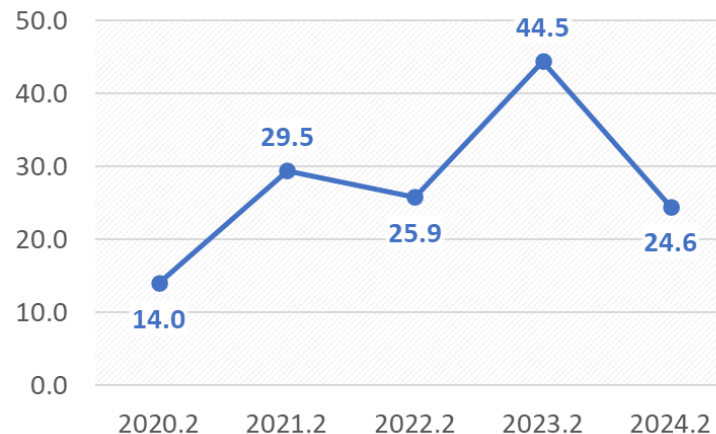
## ROE



### <分析>

- ROE = 「売上高当期純利益率」×「総資産回転率」×「財務レバレッジ」であるところ、2021年2月期以降「売上高当期純利益率」が伸び悩んでいることがROE低下の要因となっている。（次頁参照）

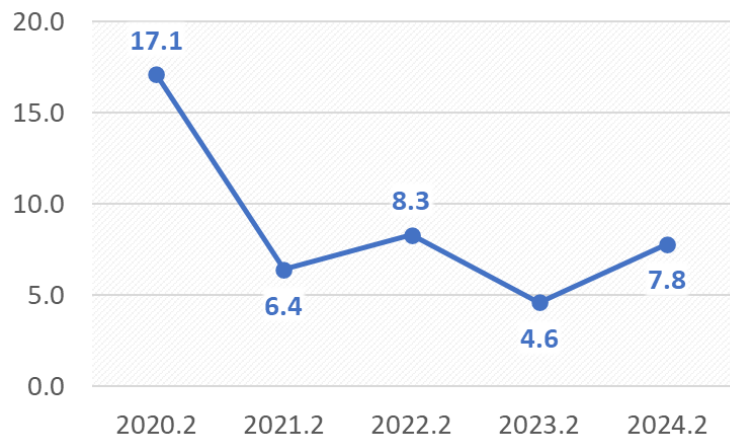
## PER



### <分析>

- 直近では、プライム市場平均19.5倍（2024.2月時点）を上回った状態で推移している。
- 「2025 大阪・関西万博」やインバウンド需要を背景とした商業施設の新設・リニューアルの活性化が見込まれ、業績向上に対する期待から比較的安定した数値で推移している。

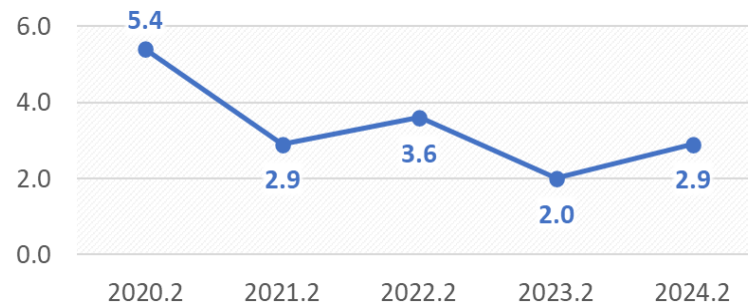
## ROE



## &lt;計算式&gt;

ROE = 売上高当期純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ

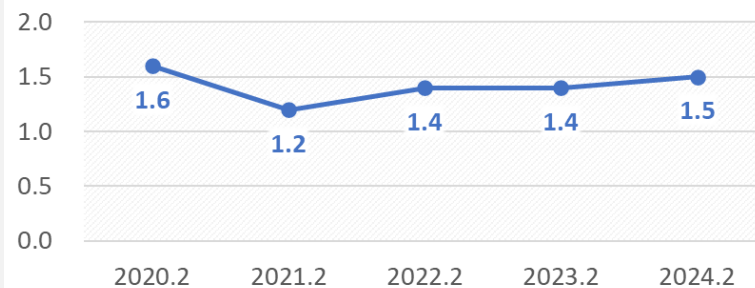
## 売上高当期純利益率



## &lt;分析&gt;

(親会社株主に帰属する当期純利益 / 売上高)  
 ・コロナ禍以降、資材価格の上昇や価格競争激化など利益を圧迫する傾向が続き利益率が低下している。

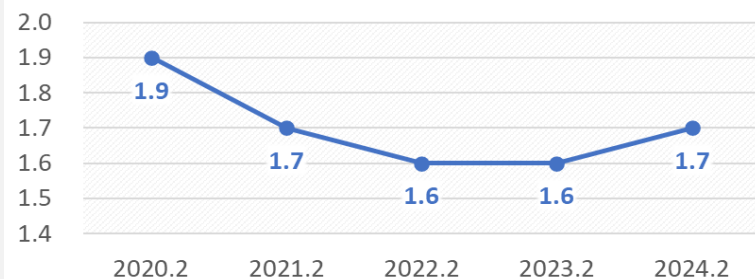
## 総資産回転率



## &lt;分析&gt;

(売上高 / 総資産)  
 ・回転率は概ね良好に推移

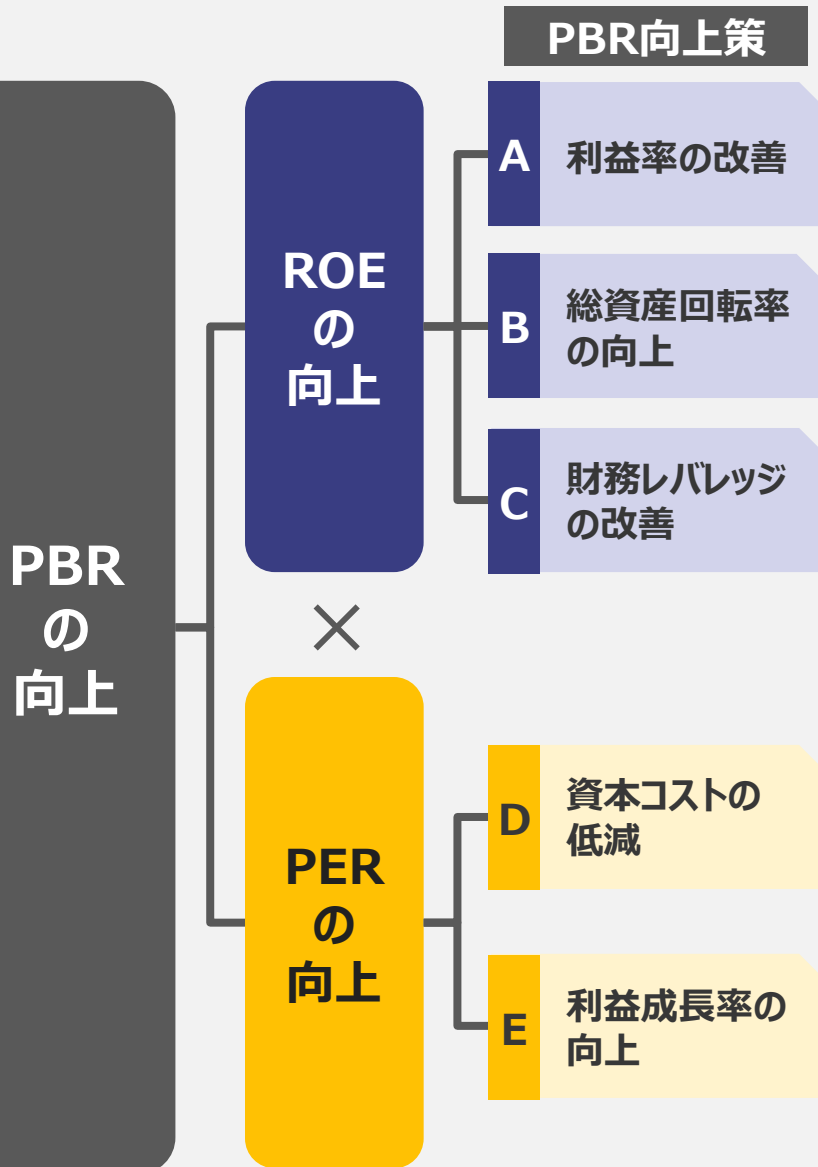
## 財務レバレッジ



## &lt;分析&gt;

(総資産 / 純資産)  
 ・各期末時点において継続して借入がないため低い状況が続いている。

# 2 PBR向上に向けた主な取り組み



主な取り組み（中期経営方針より）	PBR向上策への対応				
	A	B	C	D	E
<b>◇事業価値向上 既存事業を高度に洗練させる</b>					
・顧客深耕（関係性高度化）による提案機会・ポジションの上昇	○	○		○	○
・生産体制・サプライチェーン強化（外部）、BIM活用の高度化	○	○		○	○
・成長に向けたリソース配置、体制構築の最適化	○	○		○	○
・海外事業の需要拡大	○	○	○	○	○
<b>◇事業価値向上 新たな事業領域に挑戦し新しい事業を全社員で興す</b>					
・戦略的領域開発【次世代の事業の柱をつくる】			○	○	○
・ビジネス基盤開発【既存 + 戦略領域拡大の為に提供商品強化】			○	○	○
<b>◇社会価値向上 社会が必要とする価値を提供する</b>					
・サステナビリティの取り組み実行				○	
・効果的なブランドコミュニケーションの確立				○	
<b>◇働き方改革 個の力を発揮する働き方に挑戦する</b>					
・多様な働き方に対応する“制度・仕組み”の開発（柔軟で多様な働き方の研究と具体化）	○	○		○	○
<b>◇業務改善 クリエイティビティに費やす時間的余力を創出する</b>					
・業務プロセスの改革	○	○		○	○
・デジタル技術活用の可能性を追求する、DXを実現するためのデータ集約、解析、活用の促進	○	○		○	○
<b>◇人財育成 創造力と実行力を発揮する人財を育成する</b>					
・基礎知識の習得、専門知識の習得				○	○
・最適な人事配置の実施、相互理解の促進				○	○
<b>◇R&amp;D 新たな提供価値創造のための研究開発を実行する</b>					
・ノムラグループの成長に必要な新たなR&D領域の特定、活動の推進			○	○	○
・クリエイティブ活動におけるオープンイノベーションの促進			○	○	○

持続的な企業価値向上を目指した成長投資

# 株式会社 乃村工藝社

(証券コード：9716)

<https://www.nomurakougei.co.jp/>

## IR・株式に関するお問い合わせ

経営管理部  
([ir@nomura-g.jp](mailto:ir@nomura-g.jp))

### 将来の見通しに関する注意事項

記載されている業績予想などの将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報にもとづき、当社が合理的と判断したものです。潜在的なリスクや不確実性が含まれているため、実際の成果や業績は記載の予想と異なる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。